

助ケ。而ノ船渠。製鉄場。軍艦。水道工事。及ビ陶器製造等ノ梗槩ヲ知り。殊ニ異郷ノ山水風土。人情習慣ヲ察シ。耳目ノ觸ル、所ニ從テ。致格ノ端ヲ啓ケルモノ。蓋シ擧シトセズ。客歲福岡ノ行ヤ。多ク神社佛閣ヲ訪ヒ。名所舊跡ヲ探リ。以テ聞見ヲ廣クシタリ。而シテ此行ヤ。多ク新事業。新事物ニ就キ。以テ大ニ知識ヲ發明スルモノアリ。是レ客歲ノ行ト。異ル所以ナリ。且ツヤ此行。至ル所。各學校有志家ノ優待ヲ受ケ。其間接ニ。州縣普通教育ニ。利スル所アリシヤ。固ヨリ疑ヲ容レズ。若夫レ職員生徒ノ親睦ヲ厚フシタルハ。抑モ餘事ノミ。即チ貴重ノ光陰ト。貨財トヲ費ヤシ。學課ヲ休ミタルノ効果。亦豈ニ鮮シトセン乎。嗚呼遊ト云。遊ト云。行樂ヲシモ言ハン乎。遊ハ風ヲ觀。俗ヲ察シ。智識ヲ啓發スル所以ナリ矣。

兵式列成士氣雄。經文緯武望威風。

旌旗所指九州化。載得奚囊冊子中。

壬辰一月一日

菊 邨 題

翻譯

たいくとりや女王之傳

(第二)

廣田直三郎 譯

皇女六月廿四日ヲ以テ聖教ノ洗禮ヲ受クかんに入ト大僧正(どくどる、よんなーす、さつとん)儀

禮ヲ舉行シるんどん僧正(とくとる、はうれい)之レヲ助ク皇女ヲ名ケテあきさんどりあ、うい
くとりやト云フ太子りせんと教父トナリ魯西亞皇帝あきさんだ、うい、うゆるてるべるぐノどわ
ーがー女王(おーがすたす皇女ト稱ス)及こぼーぐノ公爵夫人どわーがー共ニ之ヲ輔翼スはん、
あめらあ、もーれーガ回想記ニヨレバけんど公爵ハえりさべすノ名ヲ以テ其兒ニ付セント欲セ
シカドモ(蓋シるりさべすナル名ハ英國士民ノ心情ニ投合スルモノナレバナリ)洗禮ノ時ニ當テ
ヤ太子りせんと只ダあきさんどりやノ名ヲ賜フ是ニ於テ公爵他名ヲ以テ之レニ加ヘンコテ請
フ太子輒チ答テ曰ク宜シク其母ノ名ヲ以テ之ニ加フベシ王名ヲ冠冒スルヲ禁ズト遂ニ稱シテあ
れきさんどりや、うい、うい、くとりやト云フト

ぐれがういゝる曰クヒよーじ四世ハ聖教徒じよーじあなヲ以テ其名トナサント欲セシト同年八月
皇女ブいくとりや種痘ヲ終ヘ茲ニ始メテ王家第一位置ニ升リタルチ一言セントス

抑モ女皇ハ後世英國女皇ノ名ヲ以テ世界ヲ睥睨セリト雖モ其幼時ニ當テヤ王位ヲ繼承センコ甚
マ難カリキ蓋はけんど公爵ハじよーじ三世ノ第四子ナレバナリ然カレモ王家ノ系統中不慮ノ變
事アリテ爲ニ皇女ノ王位ニ近接スルニ至レリ初メじよーじ四世ノ獨兒ちやーろつと皇女正サニ
王位ヲ繼グベクシテ薨ゼシカバよーく公爵之ニ尋グニ當ルモ殿下子ナシ追次シテじよーじ三世
第三子くられんす公爵ニ至ル公爵皇女あでれーとヲ娶リ一女ヲ生ム天若シ壽チ此一女兒ニ假ス
アラバ典範ノ定ムル所ニ從ヒ女王タリシヤ疑ヒナシ然レモ不幸幼時ニ夭ス是ニ於テ英國王統中

がいくとや皇女ヲ除キ又タ位ヲ繼グベキモノナキニ至レリ

一千八百十九年冬月けんど公爵夫妻其小兒ヲ携ヘテでばんノ東岸しとまらすニ赴ク翌年春皇女殆ンド危機ニ接セシコアリ初メしとまらすノ一少年携銃ノ許可ヲ得タリ一日殿下ノ宮邸ノ近傍ニ小鳥ヲ見テ發砲セシガ誤テ彈丸宮邸中ニ入り育兒室ノ玻窓ヲ穿チ皇女ノ頭上ヲ過テ乳婦ノ腕ヲ傷ケリ發砲者ハ直チニ捕ヘラレ公爵ノ前ニ引出サレシガ殿下ノ仁厚ナル向後無謀ノ惡戯ヲナスベカラザルヲ説戒シ直チニ解放セリ

既ニシテしとまらすニ於テ更ニ悲愴悼惜ノ事件起リタリけんど公爵嘗テ風雪ヲ冒シテ行歩シ其濡靴ヲ脱去スルヲ怠リ遂ニ劇烈ノ疾病ヲ醸セリ（此時公爵家邸ニ達シテ直チニ育兒室ニ赴キタリシト以テ其兒ヲ昵愛スルノ非常ナリシヲ知ルベシ）薙栗交々起リ更ニ高温ノ熱病トナリ胸脈衝ヲ重加シ遂ニ起ス

前回「千八百二十七年五月十四日女皇即位ス那曼戰勝後茲ニ至ル迄實ニ六世ヲ經ヌ」ノ三十四字ハ誤譯ニテ「女皇即位ノ歲ヨリ千八百八十七年五月廿四日ニ至ル迄ノ如キ長即位年數ヲ有スルモノハ那曼戰勝後僅カニ六帝アルノミ」ノ筈ナリ

雜報

○叙任 本會名譽會員諸君ニシテ先般叙任セラレタルモノ左ノ如シ